

## 『アナと雪の女王』の音楽的有機性

栗原詩子

### 1. はじめに

ディズニーがアンデルセン (Hans Christian Andersen, 1805-1875) の「雪の女王」(Sneedronningen [The Snow Queen], 1844) を大胆に翻案<sup>1)</sup>して制作したミュージカル・アニメーション映画『アナと雪の女王』(Frozen)<sup>2)</sup>は、「恐れ」とそれを乗り越える献身的な「愛」の物語とされる<sup>3)</sup>。アレンデール王国の王女エルサは、心理的に動揺すると両手から雪と氷が放射してしまうという、自身の先天的な特殊能力のために幽閉されて育ち、自身の存在そのものを害悪や危険に満ちたものとみなして山に引きこもろうとする。しかし、その妹アナは、姉エルサと王国への愛ゆえに、危険を顧みず山に登る。アナは、エルサの無為の魔力と利己的な色男ハンスの策略によって死の危険にさらされるものの、氷商人クリストフの献身や、人格を帯びた雪だるまオラフの献身に助けられ、最終的にエルサを罪悪感の呪縛から解き放つ。エルサは生来の特殊能力を、臣民のために有効に活用すべきものとして、カミング・アウトする。

---

1) 改変の程度はきわめて大きい。原作の7章をまたぐ主役カイとゲルダは、映画ではアレンデール城の執事夫婦の名前として設定され、しかも、劇中の台詞等によっては名前を知り得ないほど、端役に追いやられ、原作のトロルは真を偽に歪める鏡をつくりですが、映画では愛と癒やしの存在である。Anonyms, “Kai and Gerda”.

2) 本国アメリカでは2013年11月公開、日本では2014年3月公開。本論執筆の2014年9月までの時点で、世界42カ国語で公開されている。

3) 脚本・共同監督のジュニファー・リーによる。『アナと雪の女王 公式パンフレット』p.12 (without page number)。また「恐れ」の問題は、特にトロルの台詞として2度にわたって示されている。幼少のアナの治癒場面における「恐れが敵となるだろう」(Fear will be your enemy/0:07:43) と、クリストフとアナを祝福する場面における「おびえてると道見失う」(People make bad choices, if they're mad or scared or stressed/1:07:42) である。

本論の第一の目的は、『アナと雪の女王』のミュージカルとしての音楽的有機性を明らかにすることであり、そのために、主題音楽とされるエルサの独唱曲《ありのまま》(Let It Go)に加え、ミュージカル内での繰り返しの多さに着目して、2つの楽曲《雪だるまつくろう》(Do You Want to Build a Snowman)と《生まれてはじめて》(For the First Time in Forever)の様相を分析する。結論を先取りすれば、《ありのまま》が作品のアイコンとなり、「主題歌」として完結しているのに対し、《雪だるまつくろう》と《生まれてはじめて》が、精神的な成長譚としての物語性格を象徴する「主題音楽」として、作品内に根をはっていることが明らかになるであろう。

これとあわせて、大学紀要の媒体的特性に鑑み、本論は、学生にミュージカル分析の実例を示すことに、副次的な目的をおいている。したがって、上記に加えて、アナとハンスの二重唱《とびら開けて》(Love is an Open Door)をも観察したい。これは、この二重唱を扱うことによって、ミュージカルの以下三点を示すことができると思われるためである。

旋律の修辞	アナとハンスの二重唱《とびら開けて》
調性の修辞	アナとエルサの二重唱《生まれてはじめて》
展開と再現	アナの独唱《雪だるまつくろう》

またこの二重唱で愛の人アナと偽りの人ハンスの音楽的な描き方を観ておくことは、音楽的修辞の前提を整理するだけでなく、「愛」に牽引されて恐怖を克服する成長譚について、少なからぬヒントをもたらしてくれるだろう。

## 2. 『アナと雪の女王』の主題歌《ありのまま》

さて、当作品の主題歌は、エルサが故国からの隠遁を決意する場面で歌われる楽曲《ありのまま》(Let It Go/譜例1)である。

譜例 1 《ありのままで》サビ (chorus) 部分<sup>4)</sup>

これを主題歌とみなすことのできる理由は、第1に、エルサが山中に自分だけの宮殿を築きあげる視覚的印象の最も強い場面で歌われることだ。「印象が最も強い」という点については、監督自身がそのように述べているし（引用1）、歌の終わりに、エルサが築きあげた城が遠景から映し出される際（0:34:38）、その画面構図や色調が、ディズニーのトレードマークともいえる（ゆえに映画のオープニングタイトルで示される）シンデレラ城とほぼ同じように設定されていることから、制作スタッフが、この楽曲を、作品のアイコンとして焦点化しようとしていた意図がうかがえる。

引用 1<sup>5)</sup>

印象深いシーンは、エルサが「Let It Go」を歌いながら、氷の宮殿を作るころだと思う。観客にも、とても印象深いものになるだろう。

ここに、第2、第3の理由として、《ありのままで》が作品終了後のクレジットロールの際に流れることや、制作会社が、この歌の25ヵ国語分の歌唱をリミックスしてプロモーション用に発表<sup>6)</sup>したことを加えてよいだろう。そして、『アナと雪の女王』の公開以来、順調な興行成績<sup>7)</sup>にともなってもはやされる言説も、

4) ディズニー公式楽譜 (*Frozen: Music from the Motion Picture Soundtrack.*) を参考に筆者が作譜。

5) 監督のクリス・バックによる。『アナと雪の女王 公式パンフレット』 p.11 (without page number)。

6) このマルチランゲージメドレーは、2014年2月6日より映像共有媒体 Youtube の「ディズニー公式 YouTube チャンネル」で流されたほか、公式 DVD にも収録された。  
<https://www.youtube.com/watch?v=6Qk5Fc1Vdqk>

7) 2014年3月に、全世界興行収入が総計 980 億円に到達してディズニー長編歴代最高記録を樹立した。この人気に乗じて、キャラクター商品も盛んに作られている。また映画の舞台となったノルウェーにも関心が集まり、観光ツアー商品も数多く設定されている。Ch. Zara, "Disney animated sensation Frozen has created a bonanza for Norwegian tourism" *The Independent*, 05 June 2014.

音楽的な評価はもっぱら、《ありのまま》の魅力に集中している<sup>8)</sup>。

しかし筆者には、作品中に全8楽曲(表1)をもつ当作品について、ただ《ありのまま》のみに注目し、他7楽曲に対する言及がほとんどみられない現状は、ロペス夫妻(Kristen Anderson-Lopez and Robert Lopez)の作曲によるミュージカル『アナと雪の女王』の音楽的有機性を過小評価することであるように思われなければならない。

というのも、楽曲《ありのまま》は、日本語版でこそ「ありのままの姿みせる」「なにも怖くない」等の肯定的文言のちりばめられた歌詞をもつとはいえ、原詞は「ほうっておくがよい」(Let it go/0:32:11)、「みんなが何と言おうと気にしない」(I don't care what they're going to say/0:32:25)などの、いわば投げやりな台詞から成る。102分の長さをもつ作品中、約1/3の時点で現れて、その後は繰り返されない点からみても、その後に展開される真のドラマの前段に過ぎない楽曲といえよう。

エルサが自己肯定などでなく、むしろ王国のための自己犠牲として氷城へ隠遁したことは、後にアナとの再会場面で「なにもかも無駄だったの?」(0:57:17)という歌詞で証される。歌詞の翻訳者は、この場面の原詞「自分の中の氷の嵐からは逃れられない」(No escape from the storm inside of me/0:57:15)を、「なにもかも無駄だったの」という日本語に置きかえることによって、《ありのまま》における改変を懐古的に修正している。

---

8) 筆者不詳「“アナと雪の女王”空前の大ヒットの秘密」『週刊現代』;「ディズニー、永遠の生命アナと雪の女王」『キネマ旬報』; R. Siegel. “‘Let It Go’: A Global Hit In Any Language.” *NPR All Things Considered*. “Walt Disney Records’ Frozen Soundtrack and ‘Let It Go’ Single Both Secure Platinum.” *Health & Beauty Close-Up*; J. Lunden “Well Into Spring”.

なお、フランスの映画批評には、《ありのまま》をはじめ当作品の音楽性を「もてはやさない」言説が目立つ。Chtounet, “La Reine des neiges” *Cineloutrés*. November 12, 2013; Anonym., “Disney exauce Walt en portant à l’écran “La reine des neiges” d’Andersen” *Le Parisien*, November 25, 2013.

たとえるなら、ヴェルディの『椿姫』において最も有名なのは《乾杯の歌》(Libiamo ne'lieti calici/譜例2)だが、オペラ全編をまとめあげる音楽上の原動力が、オペラ中6度ないし7度も現れて愛の神秘を思い起こさせる《その愛はときめき》(Di quell'amor ch'è palpito/譜例3)であることに似ている。高級娼館の利那的享楽を文字通り「一度かぎり」で謳いあげる《乾杯の歌》には、オペラを通じてヴィオレッタと観客が体験していくことになる愛と献身は内包されないのだ。

表1 『アナと雪の女王』 ミュージカル楽曲一覧

邦文タイトル	原文タイトル	歌い手
氷の心	Frozen Heart	氷切り出し職人たち
雪だるまつくろう	Do You Want to Build a Snowman ?	アナ
生まれてはじめて	For the First Time in Forever	アナ, エルサ
とびら開けて	Love is an Open Door	アナ, クリストフ
ありのまま	Let It Go	エルサ
トナカイのほうがずっといい	Reindeer are better than people	クリストフ
あこがれの夏	In Summer	オラフ
愛さえあれば	Fixer Upper	トロールたち

9) 初出は、第1幕でアルフレートがヴィオレッタへの愛を告白する場面である。その後、ヴィオレッタが、自らの逡巡《不思議だわ!》(E' strano! e strano!)の半ばに肯定的に再現するが、その思いを打ち消そうと歌う《花から花へ》(Sempre libera degg'io)の半ばでも、アルフレートの声で再現される。第2幕では、ヴィオレッタが偽りの別れの手紙を書く《神よ力を与えてください》(Dammi tu forza, o cielo!)の半ばに熱唱され、第3幕では、《さようなら過ぎ去った日々よ》(Addio, del passato)に先立つレチタティブの背後と、今際の歌《不思議だわ! 止んだのです》(È strano! Cessarono)の背後で弦楽奏される。またこの最後の歌の直前には、壮大な3重唱《受け取ってね、これは私の絵姿》(Prendi, quest'è l'immagine)の末尾で《その愛はときめき》の旋律後半部分がヴィオレッタによって再現されている。以上をまとめると、第1幕に3回、第2幕に1回、第3幕に2回ないし3回。

譜例 2 乾杯の歌/Libiamo ne'lieti calici<sup>10)</sup>

Musical score for 'Libiamo ne'lieti calici'. The score is in 3/8 time and B-flat major. It consists of two systems of piano and vocal staves. The piano accompaniment features a steady eighth-note bass line and chords in the right hand. The vocal line is a simple melody with lyrics in Italian.

Lyrics: Li bia mo, li bia mo ne' lie ti ca li ci che la bel lez za in fio ra,

譜例 3 その愛はときめき/Di quel l'amor ch'è palpito<sup>11)</sup>

Musical score for 'Di quel l'amor ch'è palpito'. The score is in 3/8 time and B-flat major. It consists of two systems of piano and vocal staves. The piano accompaniment features a steady eighth-note bass line and chords in the right hand. The vocal line is a simple melody with lyrics in Italian, including triplets.

Lyrics: Di quel l'a mor, quell'a mor ch'è pal pi to del l'u ni ver so, di l'u ni ver so in te ro, misteri o so, misterioso, al te ro, Croce, croce de li zia, croce de li za de liziaa cor.

10) ピアノ・ヴォーカル譜 (G. Schirmer, 1899) を参考に筆者が作譜。

11) ピアノ・ヴォーカル譜 (G. Schirmer, 1899) を参考に筆者が作譜。

しかし、こうした考察の意図は、《ありのまま》を、当作品の「主題歌」としての位置から墜落させようとする点にはない。というのも、オペラやミュージカルの伝統において、代表性・反復回数・印象強度の相関性は、必ずしも一定でないからである。印象的な主題歌が執拗なまでに繰り返される例もあるが——宝塚版『ベルサイユのばら』<sup>12)</sup>や映画『シェルブールの雨傘』(Les Parapluies de Cherbourg, 1964) など——、繰り返される主題歌が強い印象を形成しにくい例や、印象深いが繰り返されない主題歌の例——前者の例に『ジーザス・クライスト・スーパースター』(Jesus Christ Superstar, 1973)<sup>13)</sup>など、後者の例に『雨に唄えば』(Singin' in the Rain, 1952) など——もある。

### 3. アナとハンスの二重唱《とびら開けて》(Love is an Open Door)

主要登場人物の中で、サウスアイルズ王国のハンス王子だけが、「愛」と無縁のカウンターパートとして、きわめて特殊な性格を持つ。その血も凍るような利己性は、物語の終盤で、エルサの魔力を浴びて凍傷になったアナが、愛のキスをたのむのに応えるハンスの独白により、一気に明らかにされる(引用2)。

#### 引用2<sup>14)</sup>

ハンス：僕の王位継承権は第13位。だからもし王になりたければ、どこかの王女と結婚するしかないんだ。エルサのほうが王位には近いが、彼女は誰のことも受け入れない。でも君は愛に飢えている。喜んで僕との結婚を決めた。出会ってすぐに。僕たちが結婚した後は、エルサには事故に遭ってもらつてもりだった。だがエルサは破滅に突き進み、君は愚かにも彼女を追った。ふふ、あとはラクなもんだ。エルサを殺し夏を取り戻せばいい。

12) 阪上由紀「タカラヅカ作品の構成と主題歌」2009, pp.58-59.

13) J.C.Soles “Jesus Christ Superstar” 2012.

14) 邦文はDVDの音声より、英文はDVDの字幕テキストより (1:16:00~1:16:37)。

Hans: If only there was someone out there who loved you. As 13th in line in my own kingdom, I didn't stand a chance. As heir, Elsa was preferable, of course. But no one was getting anywhere with her. But you. You were so desperate for love, you were willing to marry me just like that. I figured after we married, I would have to stage a little accident for Elsa. But then, she doomed herself, and you were dumb enough to go after her. All that's left now is to kill Elsa, and bring back summer.

アナとハンスの出会い（0:18:05~12）や、戴冠披露パーティでのダンスの始まり（0:22:41~44）は、いかにも偶然的に発生しているし、ハンスが、アナに代わって王国臣民に越冬用物品を支給する姿勢（0:49:08~38）や、氷の宮殿でエルサの戦意を解くために述べる「エルサ女王、人々を苦しめてはなりません」（1:09:58~1:10:00）といった台詞は、王者の勇姿そのものである。したがって、ハンスのこのような卑賤かつ冷徹な上昇志向の開示は、観客に少なからぬショックを与える。

しかし思い返せば伏線はあった。戴冠披露パーティでハンスがアナに語った台詞には（引用3）、少なくとも、ハンスの育った家庭環境に、精神的屈折と卑しい上昇志向を身につけるような異様な傾向があったことが示されている<sup>15)</sup>。

### 引用3<sup>16)</sup>

ハンス：12人の兄がいるんだ。そのうち3人は僕のことが見えないようなふりしてた、2年間もね。

アナ：ひどいわね。

ハンス：兄ってそんなもんだろ。

---

15) 他の解釈の可能性として、この逸話は、アナの同情をひくためにハンスが創作した可能性もあり、だとすれば、女性を惹きつける手練として提示されていることになる。

16) 邦文はDVDの音声より、英文はDVDの字幕テキストより（0:23:17~0:23:25）。



Hans: Twelve older brothers. Three of them pretended I was invisible, literally, for two years.

Anna: That's horrible.

Hans: It's what brothers do.

そして、この会話の直後に始まる二重唱《とびら開けて》(0:23:44~0:25:38)の旋律には、素朴なアナと屈折したハンスの性格的対比が見事に示されている。このことを、和声音楽における「構成音のゆれ」(転位)という観点に沿ってみておこう。

「構成音のゆれ」(転位)という観点は、今日の日本で和声法を学ぶ際に多くの学習者が参照する島岡譲が『総合和声——実技・分析・原理』(1998)で提示した概念<sup>17)</sup>である(引用4)。より一般的な用語法では「非和声音」<sup>18)</sup>というが、四声体和声を基盤とした「非和声音」の概念がクラシック音楽領域に限られるのに比べると、それ以外の音楽語法への適用の可能性が期待され、同書の骨子をなす概念でもある<sup>19)</sup>。そして転位には、具体的な形態として、経過音(カと略)・刺繍音(シ)・倚音(イ)・掛留音(ケ)・逸音(ツ)・先取音(セ)がある<sup>20)</sup>。

#### 引用4<sup>21)</sup>

和声音楽の成立によって1つの問題が生ずる。それは、和声におけるタテ(同時関係)とヨコ(継時関係)の間の矛盾・相克をどう調整するか、で

17) 同書の前身にあたる『和声——理論と実習』全3巻(1967)では、定位音(和音構成音)と転位音(和音外音)として説明されていた。島岡譲他『和声——理論と実習』第3巻, p.111脚注, p.122脚注。

18) 同じ著者(1926年生)でも、初期の著作『和声の原理と実習』(1958)や『和声と楽式のアナリーゼ』(1964)では、「非和声音」の概念が用いられている。

19) 島岡譲他『総合和声——実技・分析・原理』p.2, 注3。原文は以下のとおり。本書の和声学習の骨子——和声をとらえる根本的視点——は“ゆれ”である。“ゆれ”の理論は西欧多声音楽の全史を射程に収められるだけでなく、さらに同種の音素材(半音列, 全音階, 及びその各種区分としての諸旋法)を用いた単旋・複旋の音楽(他の時代, 他の文化圏を含む)にも拡張・応用しうる可能性を持つと考えられる。

20) 島岡譲他『総合和声——実技・分析・原理』pp.160~161。

21) 島岡譲他『総合和声——実技・分析・原理』p.438。

ある。ヨコ（継時関係）の基本は順次進行である。旋律は音階のステップの上を順次に動いていく。タテ（同時関係）の基本は3度の積み重ね（3和音）である。それは自然3和音にかたどって作られ、協和・融合した響きを生みだすことを本務とする。ところで、1個の3和音〔の場〕が持続する間に、ある声部が自由に順次進行を行えば、必然的に「和音外の音」が頻出することになる。こうした「和音外の音」は、タテ（3和音）の響きから見ると、当然、不協和・不調和な音である。（中略）この問題への解答が「構成音のゆれ」（転位）という原理である。即ち、どの「和音外の音」もいずれかの「和音構成音」と音階的なつながり（隣接関係）を持ち、「その構成音のゆれ」として把握される限り、和声の合法的な構成要素と認められる、という原則である。

さて、第1ペリオード（5～26小節<sup>22)</sup>/ニ長調）におけるハンスの旋律の特徴は、巧みな修飾と転位<sup>23)</sup>であり、これに比べると、アナの旋律はもっぱら和音構成音に留まりがちである。むろん歌唱旋律というものの基盤からして、転位はどちらにもみられるが、アナの転位は、旋律を滑らかにするための経過音か、グルーブ感<sup>24)</sup>を醸成するためのわずかな先取音にとどまるのに対し（譜例4）、ハンスの転位は、倚音や、経過音があるにもかかわらず別の音位に跳躍する修飾音（譜例5）、主音からの逸音や二重刺繍音（譜例6）など、きわめて多彩である。「構成音のゆれ」の観点で言い替えると、基本的に、アナはゆれず、ハンスはゆれる。

---

22) 本稿の小節番号は、ディズニー公式楽譜 (*Frozen: Music from the Motion Picture Soundtrack*) に従う。

23) 岡の語法に従い、本論では、転位を「原音が隣接音度へゆれ動くこと」、修飾を「原音が他の構成音へ跳び移ること」と捉える。『総合和声——実技・分析・原理』p.159。

24) 当楽曲には冒頭に発想指示として「適度に、明るいグルーブをつけて」(Moderately, with a cheesy groove) の語がみられる。

譜例4 《とびらあけて》5～8小節<sup>25)</sup>

1 カ 3 5 5 3 1 3 5 セ イ 5 3 セ 1 1 カ 3 カ 5 3 カ 3 1 セ 5

どこにもでぐちのない ひびが とつ ぜんにかわりそう

I VI<sup>1</sup> IV<sup>2</sup> V<sup>1</sup> I VI<sup>1</sup> V<sup>1</sup>

## 譜例5 《とびらあけて》13～14小節

3 3 セ 1 5 3 1 7

「先取」

アナ かわる

ハンス 1 カ 3 ケ カ 5 セ イ 5 す べ て が

和音 き み と で あ え て

I<sup>1</sup> VI

## 譜例6 《とびらあけて》17～20小節

7 カ 5 セ イ 5 1 7 カ 5 セ イ 5 1

アナ ふたりだ から とびらあけて

ハンス 7 カ 5 セ イ 5 1 ツ ツ 7 カ 5 セ イ 5 上 下 1

和音 ふたりだ から とびらあけて

興味深いのは、第2ペリオード（27～46小節/ホ長調）になると、アナの旋律が、ハンスの巧みで多彩な転位語法を模倣しはじめる点である。「構成音のゆれ」の観点で言い替えるなら、アナも、ハンスをまねてゆれるようになるのだ。音階

25) デイズニー公式楽譜（Frozen: Music from the Motion Picture Soundtrack.）を参考に筆者が作譜。以下同。

第6度音から第5度音へ順次下行する終止を、第6度音から第1度音へ跳躍上行させ、より大きな刺激に到達しようとするのは、第1ペリオードでハンスが披露した修飾語法にほかならない（譜例7点線）。ただし、ハンスはアナの模倣を受けて、より強い刺激を求め、別の和音構成音へと修飾し、しかも逸音に上行するのであるが（譜例7実線）。

また、休符によって旋律の流れを中断する（譜例8）といった様相もみられる。この二重唱は、アナがハンスの巧みな歌唱技術を模倣・習得するプロセスとして展開し、終盤にいたって、アナがハンスの目論見どおりに動く——「ふふ、あとはラクなもんだ」（引用2参照）——ように設計されているのがわかる。

譜例7 《とびらあけて》における転位語法の模倣

20～22小節

20～22小節

アナ  
7カ5セイ5 5カ5 1 5  
とびだせるのいまもう

ハンス  
とびだせるよいまもう

和音

42～44小節

42～44小節

アナ  
7カ5セイ5 5カ5 1 7  
とびだせるのいまも

ハンス  
とびだせるのいまもう

和音

## 譜例 8 《とびらあけて》44～45小節

7 カ 5 セ イ 5 ↓ 3 5 シ 5 ケ 5

アナ  
ふたりだ か ら

ハンス  
ふたりだ か ら

和音

しかし、さかのぼって、アナの恋にも、ハンスの実利志向を予め裏打ちする傾向があったことは否めない。姉と同様に閉ざされた養育環境にあったために諸交流に飢えたアナは（引用 5）、宮扉開放のきっかけとして伴侶獲得を夢みる（引用 6）。そしてアナは、宮扉開放の手段として伴侶獲得を着想するのである。

## 引用 5 《雪だるまつくろう》第 2 ペリオードの歌詞より 39～47小節

ずっと独りしていると	I think some company is overdue;
壁の絵とおしゃべりしちゃう	I've started talking to the pictures on the walls
さみしい部屋で	It gets a little lonely, all these empty rooms,
柱時計 見てたりするの	Just watching the hours tick by.

## 引用 6 《生まれてはじめて》第 3 ペリオードの歌詞より 79～82小節

自由に暮らせるの	I'm getting what I'm dreaming of;
全てを変えよう	a chance to change my lonely world,
恋を見つけて	a chance to find true love.

これは、王宮内のアナの政治的発言力が第 2 位であることをふまえたものだと推測される。アナにとって伴侶獲得がアレンデルの宮扉開放と分かちがたく結びついているのは、戴冠披露パーティで姉に宮扉開放を提案し「それは無理」と

拒絶された直後に《とびらあけて》が歌われる点、姉に婚約を報告する際に他国への婚嫁ではなくアレンデールの王宮内で夫と暮らすことを提案する点、また、女王エルサから「出会ったばかりでの結婚」を禁じられた途端、アナの口をついて出てくる言葉が、ハンスへの恋心の吐露でなく、「私もうこんな生活は耐えられないの」(0:27:05)である点などからみて、明らかである。さらに「作品の初期構想段階では王位継承者と予備に関心が注がれていた」<sup>26)</sup>という談話も傍証となろう。従来描かれてきた様々なヒロインたちが、前後の事情を顧みずに恋におち、相手と結ばれるなり自身の人生をなげうつなりするのは対照的に、アナの婚選びには生活環境の改善という目的が先立っている。この視点にたてば、夏野・黒瀬・東の3氏が掲げた「クリストフはなぜ業者扱いなのか？」<sup>27)</sup>の問いに答えることも、いっそう容易になるだろう。エルサ女王が「もう二度と城の門は閉めない」(We are never closing them again/1:32:00)と約束する頃にもなれば、伴侶獲得へのアナの渴望は失せ、ライトな関係の恋人が通ってきてくれれば充分なのかもしれない。

こうしてみると《とびらあけて》において、アナがハンスの「構成音のゆれ」の技術を吸収し、その装飾語法を模倣していくプロセスは、宮扉解放のための発言力を望むアナが、権力獲得を望むハンスに追随し、その手法を学んでいくプロセスであるようにさえ思えてくる。アナとハンスは、物語の序盤の時点では、彼らが自覚する以上に「よく似てる」<sup>28)</sup>面も持っていたのである。

#### 4. 《生まれてはじめて》(For the First Time in Forever)

《生まれてはじめて》は、映画『アナと雪の女王』の中で、「反復」が公式に

---

26) 米版サウンドトラック CD デラックス版におさめられたアウトテイク (作曲・演奏されたが完成版映画では削除された楽曲) 集での、ロベス夫妻のコメント。トラック 5《ただの予備ではいや》(More Than Just the Spare)。原文は“*There was an early draft that was all about the heir and the spare.*”

27) 夏野他対談「クリストフはなぜ業者扱いなのか？」(2014)

28) 《とびらあけて》第2ペリオードの歌詞より。

表明されている唯一の楽曲である。初回提示は、戴冠式で宮内に人々が訪れることを期待する場面で3ペリオードをもち（0:13:21~0:17:03）、再提示（リプライズ）は、氷の宮殿を訪れ、姉のエルサに帰郷を説得しようとする場面で2ペリオードをもつ（0:55:42~0:57:46）。初回提示と再提示（リプライズ）の差異としては、1回目は旋律のみで歌い継がれるのに対し、2回目はシュプレッヒシュティンメを多く含んでいるという対比が印象的である。また、エルサのカウンター旋律は、1回目では第3ペリオードの冒頭に、2回目では第1ペリオードと第2ペリオードの中間におかれている。

旋律の骨格は、短い前奏（譜例9/1~3小節）に続いて、3段構えで示される。跳躍（和声論的修飾）の多い旋律A（譜例10a/4~15小節）を経て、堂々とした旋律B（譜例10b/16~30小節）に至る。また、アナの歌声が印象的な楽曲ではあるが、初回提示と再提示のどちらとも、エルサによる旋律C（譜例10c）が1度ずつ挿入されている。これら3つの旋律の中で、楽曲タイトルを歌詞にもつカンタービレの旋律Bは「サビ」（chorus）と位置づけられる。また、サビと同様にカンタービレ調でありながら、大きな転調を伴って印象的に提示される旋律Cは、「カウンター楽句」と位置づけられよう。

譜例9 《生まれてはじめて》前奏



譜例10 《生まれてはじめて》 骨格旋律

a) 旋律 A



b) 旋律 B (サビ楽句)



c) 旋律 C (カウンター楽句)



ただし、3つの骨格旋律は、決してバラバラに存在しているわけではない。サビは実際には、16小節の典型的なリート形式「 $a a' \beta a'$ 」で展開され（譜例11）、この時、第3楽句の $\beta$ （譜例11の3段目）が、元来サビ旋律（旋律 B）の外部にある旋律 A の性格——すなわち快活さ・跳躍性・叙唱性——をそのまま反映することで、旋律 A と旋律 B のあいだに緊密な連携性が生まれる。旋律 B を中心として展開される「サビ」の中に、元来旋律 B とは全く異なる性質をもつはずの旋律 A から「派生」する内容が含まれることで、楽曲内部の有機性が醸成されるのである。

旋律 A と旋律 B の連携性に比べ、旋律 B と C はきわめて異質に響く。この異質さは二重の遠隔調に設定されていることに由来する。第1に元来、旋律 B がへ長調（譜例10b）、旋律 C が変ホ長調（譜例10c）に設定されているという遠隔関係、第2に、旋律 B が、第1ペリオード（へ長調）の後に第2ペリオードで半音スライドして転調し（変ト長調）、この変ト長調と、後続する旋律 C の変ホ長調



の遠隔関係である。アナとエルサの対比，つまり「火と氷，愛と孤独」<sup>29)</sup>の対比を調性で具現していることになる。

譜例11 《生まれてはじめて》サビ旋律の展開

うま れては じめて おん がく に のり うま  
 れては じめて おど り あか すの ああ  
 うれしくて わたし まい あがりそ う もうひ  
 とり じゃ ない ゆめの よう

劇音楽の調設計については，作曲者のその都度の観点によって，転調の近親性に立脚したり，音象徴に立脚したりと，さまざまな手法がある。《生まれてはじめて》の調設計は，2つの骨格にしたがって設計されている。第1にポピュラー音楽に多くみられる半音階スライド上昇，第2にサビ楽句とカウンター楽句の関係が短三度下，という骨格である（表2）。そして，設計の第1点は，アナの旋律Aをめぐって展開し，「火と愛」がふくらんでいくような表現に，設計の第2点は，アナとエルサの性格的対比を象徴的に示すような表現に，それぞれ結実している。

29) ディズニー『公式パンフレット』，p.4.

表2 《生まれてはじめて》の調的骨格

小節番号	1-3	4-15	16-23	24-30	31-32	33-44	45-52	53-59	60	61	62-70	71-76	77-84	85-94
構成	前奏	Aメロ	サビ前半	サビ後半	間奏	Aメロ	サビ前半	サビ後半	間奏	カクテ	掛け合い	サビ前半	サビ後半	
声部											エルサ		(二重唱)	
調性	F					Ges				Es			G	
小節番号	1-2	3-5	6-9	(10)	11-15	16-25	26-30	(31-35)	36-43	44-50	51-56			
構成	前奏	Aメロ末尾	サビ前半		サビ後半	カクテ	掛け合い		サビ前半	サビ後半	後奏			
声部						エルサ			(二重唱)	(二重唱)				
調性	Es					C	Es E			v	G			

声部行に無記入の部分はアナの歌唱  
小節番号を( )で囲んだ部分は無旋律の台詞

再提示(リプライズ)は、序盤からサビ旋律に突入している印象が強い。これは初回提示で、3小節の前奏に加え、12小節の旋律A群(旋律Aを2回とその展開形を1回)で丹念に導き出していたのと対照的であり、実際のところ、再提示部では、旋律Aを、その展開形の後半2小節のみを提示するに留めることによって(譜例12)、《生まれてはじめて》の要が、サビ部の旋律Bであるという位置づけを明示する。そしてこの後、旋律Bもまたリズム的に縮小される。

譜例12 《生まれてはじめて》旋律Aの省略提示と旋律Bのリズム縮小

初回提示(13~20小節)



再提示(3~8小節)



さて、『アナと雪の女王』全体を通じて、作曲技術的な面での白眉といえるのは、旋律Cの後に繰り出される二重唱、ならびに、そのリプライズである。

初回提示の二重唱は短い(譜例13a)、掛け合いで提示される旋律線は、歌詞との連携がめざましい。戴冠式で一時的に宮扉を解放する直前の、エルサとアナ

の対称的な思いが、同じ台詞<sup>30)</sup>を別様に聴かせるように、変トの長三和音と変イの長三和音という、およそ変ホ長調内には並置されえない和音上に作曲されているのだ。エルサの「今日」の台詞は、「変ロ-ハ-変ニ」の動きをとるほうが、旋律として自然であり歌いやすいはずだが、わざわざ「変ロ-変ハ-変ニ」のラインをたどるべく、臨時記号があてられている。これは、「変ロ-ハ-変ニ」にすると、おのずから変ニ長調への転調が暗示され、変イの長三和音とのギャップが形成されなくなってしまうので、それを避けるための措置だろう。

さてこれに対し、再提示（リプライズ）の二重唱は、同様の短い掛け合い（譜例13b）の後に無旋律の対話を挟んで<sup>31)</sup>、サビ旋律が二重唱に拡大されるという大掛かりなものである（譜例13c）。はじめのうち、エルサはアナの呼びかけに引きずられるようにして、アナと同じホ長調で歌っているが（36～41小節）、やがて嬰ハ短調に転じる（42～45小節）。ほんの一時ではあるものの、2人が複<sup>ポリトナリテイ</sup>調で歌うこの区間は、アナの希望とエルサの絶望とが最も対比的に音楽化される場面だ。そしてこの後、エルサが進んでいくホ短調（48～50小節）は、彼女がいる嬰ハ短調からみて、平行同主調である。これと同時に、アナがいるホ長調の同主調すなわち、対称的な調でもある。49小節でアナがこのホ短調の旋律線をなぞることで、2人の力関係が、エルサ主位へと転換したことが音楽的に示される。このようにして、音楽は物語を克明に表現する。

これと並行して、純粋に音楽的な範疇においても、サビ旋律の内部（前出のβ部分）を縮小する修辞が施され（譜例13d）、再提示の歌い始め（前出の譜例12参照）との語法的一貫性が確保される。

30) 和訳版では異なる副詞をあてたり、別種の言葉として訳出されているが、原詞では、完全に同一の2組の台詞（“It’s only for today”と“it’s agony to wait!”）が対置されている。

31) 公式版楽譜では30～35小節があてられている。

譜例13 《生まれてはじめて》二重唱

a) 初回提示の二重唱 (71~73小節)

きょうだけでも ゆめをみたい  
 It's on ly for to-day It's ag-o -ny to wait!

でもきょうだけなら うまくやろう  
 But it's on ly for to-day It's ag-o -ny to wait!

b) 再提示における二重唱の前半 (26~28小節)

それはむり ものすごいゆきよ  
 なぜむりなの なんのこと

c) 再提示における二重唱の後半 (36~50小節)

36 れてはじめて ゆうきをだして ふた  
 ああ ひどいわかなしい なにかもむだだつ

40 りてをとり うふゆをおらせよう  
 たのむ いみだったの お わたしにできること

44 きいて あおいそらを とり  
 は なんにもない きけんだけ

47 もどしたいかならずできるわちからあわせれば  
 ああ やめて

## d) 初回提示（24～25小節）と再提示（44小節）の旋律比較

初回提示（24～25小節）



再提示（44～45小節）



## 5. 《雪だるまつくろう》(Do You Want to Build a Snowman)

《雪だるまつくろう》(0:08:18~0:11:37)は、王女姉妹が別々に育てられていく十数年間を、アナの目から圧縮してたどる3部形式の楽曲である。四度進行・六度進行が明瞭な歌い出し部（譜例14a）と、五度進行・三度進行の様相が強い中間部（譜例14b）とから成る。3ペリオードをもち、幼年時代（第1ペリオード）、十代前半（第2）と、両親である王夫妻の葬儀後（第3）の心情の差を表現するために、各ペリオードを異なる歌手が担っている。ただし各ペリオードの表情の差は、歌詞や声質のみならず、旋律そのものによっても生みだされている。

## 譜例14 《雪だるまつくろう》主要旋律

a (歌い出し部)



b (中間部)



すなわち第1ペリオードが三部形式の全体を提示して、姉妹の対話を描くのに対し、第2ペリオードは、孤独を半ば受け入れたアナが中間部旋律で「淋しい部屋で柱時計を見てたりする」(all these empty rooms, just watching the hours tick by)と歌い、そのまま歌い出し旋律を再現することなく、秒針を模して「チクタク」

と舌音を鳴らす。それとともに映画のスクリーンの中の時間も、いわば「時を刻む」。エルサの魔力は成長と共に強まり、王夫妻が外国遊説のために乗船して嵐に遭い、難破して埋葬されるまでが、一分間（楽譜にして36小節間）で描きだされる。第1・第2ペリオードでは、タイトル語にあたる歌詞「雪だるまつくろう」（Do you want to build a snowman?）が歌い出しに置かれていたが、つづく第3ペリオードは「ねえドアを開けて」（Please, I know you're in there）で始まり、三部形式の再現部つまり楽曲の締めくくりで、つぶやかれる。このことにより聴き手は、「雪だるまつくろう」なる文言が、現実的な対話機能を消失し、2人の絆を想起させるための糸口言葉（trigger word）になったことを知るのだ。

なお、幼年時代の事故直前に作った雪だるまオラフは、その後、アナをエルサの水城に案内するのみならず、凍傷のアナのために暖炉の火をおこすなど、大活躍する。しかし、音楽的には関連性が薄すぎる。雪だるまのオラフが歌う《あこがれの夏》（In Summer/0:47:30~0:49:18）は、1940~50年代ハリウッドのダンス・ミュージカルの様式を模したもので<sup>32)</sup>、旋律そのものに古典的和音が織り込まれた《雪だるまつくろう》とは、似ても似つかない。

これに対して、雪山を描くいくつかの場面に表情をつけるためにバックグラウンドで演奏される「雪山のモチーフ」とでもいべきもの（譜例15a, b）は、三拍子が大きな相異点である点をさしひいても、《雪だるまつくろう》の四度進行・六度進行を濃厚に備えている。四度のモチーフとしては、アナがクリストフに依頼した雪山案内がはじまる場面で4回反復され（譜例15a/0:40:08~0:40:32）、六度のモチーフとしては、狼の群れに襲われた後に3回反復される（譜例15b/0:43:27~0:43:33）。

譜例15 雪山のモチーフ

a (四度のモチーフ)



b (六度のモチーフ)



32) J. B. Ewing, "Frozen (2013)" *Cinema Sights*. Dec. 6, 2013.

また、《雪だるまつくろう》の旋律には、音階の第3音から第4音を經由して第5音にいたる、ゆるやかな線を見て取ることができるが、これは、氷になったアナが愛にもとづく自己犠牲を通して自らを氷解させる場面で一度だけ鳴る上行旋律（譜例16/1:27:10）の基礎を成している。加えて、エルサがオラフ専用の雪雲を作る場面では、《雪だるまつくろう》旋律の原形がホルンで力強く鳴り響き（1:29:00）、アナがハンスに雪ぞりを贈り2人がキスを交わす場面（1:31:01～1:31:08）と、エルサが臣民専用の夏期アイススケート場を作る場面（1:31:10～1:31:14）では、ふたたび「雪山のモチーフ」（譜例15b）が鳴る。

譜例16 愛と自己犠牲による氷解のモチーフ



このように、王女姉妹の成長をたどるための楽曲《雪だるまつくろう》は、作品の中盤を覆い、作品後半部分にもきわめて印象的に、繰り返し再現されているわけだが、実はそれのみではない。臣民が夏期アイススケートを楽しむ間、《生まれてはじめて》の旋律と《雪だるまつくろう》の旋律が合成され（譜例17/1:32:07～1:32:31）、作品のエンドクレジットに結びつく。

譜例17 映画末尾の旋律合成

## 6. おわりに

映画『アナと雪の女王』の制作は、約2年をかけて進められ、その際、物語の筋の変更に伴って、楽曲の設定もかなり変化した<sup>33)</sup>。たとえば初期の版では、作品内で再提示(リプライズ)されるべき楽曲として、《ただの予備ではいや》(More Thank Just the Spare)や《人生は短い》(Life's Too Short)がおかれていたという。こうした改変にもかかわらず、作曲者たちが、最終形=完成版において、新たな楽曲《生まれてはじめて》を再提示するのみならず、これを《雪だるまつくろう》と合成するなどして、作品内に精緻な有機性を確立させているのは、見事というほかない。

### 参考文献一覧

- アンデルセン「雪の女王——七つの話からできている物語」, 大塚勇三編訳『雪の女王』, 福音館書店, 2013, pp.232-304.
- Anonymous, "What's Crappening?." The Stranger. 2014. HighBeam Research. (July 29, 2014). <http://www.highbeam.com/doc/1P3-3263348341.html>
- Anonymous, "Walt Disney Records' Frozen Soundtrack and 'Let It Go' Single Both Secure Platinum." Health & Beauty Close-Up. 2014. HighBeam Research. (July 29, 2014). <http://www.highbeam.com/doc/1G1-360039529.html>
- Anonymous, "Songwriters Behind 'Frozen' Let Go Of The Princess Mythology." NPR Fresh Air. 2014. HighBeam Research. (July 29, 2014). <http://www.highbeam.com/doc/1P1-225022799.html>
- Anonymous, "Disney exauce Walt en portant à l'écran "La reine des neiges" d'Andersen" *Le Parisien*, November 25, 2013, <http://www.leparisien.fr/flash-actualite-culture/disney-exauce-walt-en-portant-a-l-ecran-la-reine-des-neiges-d-andersen-25-11-2013-3348439.php>, (September 4, 2014).
- Anonymous, "Frozen" The Disney Wiki, <http://disney.wikia.com/wiki/Frozen>, (August 15, 2014).
- Anonymous, "Kai and Gerda" The Disney Wiki, [http://disney.wikia.com/wiki/Kai\\_and\\_Gerda](http://disney.wikia.com/wiki/Kai_and_Gerda), (August 15, 2014).
- Anonymous, "Life's Too Short" The Disney Wiki, [http://disney.wikia.com/wiki/Life%27s\\_Too\\_Short](http://disney.wikia.com/wiki/Life%27s_Too_Short), (August 15, 2014).
- Anonymous, "We Know Better" The Disney Wiki, [http://disney.wikia.com/wiki/We\\_Know\\_Better](http://disney.wikia.com/wiki/We_Know_Better), (August 15, 2014).
- Choutouet, "La Reine des neiges" *Cineloutres*. November 12, 2013. <http://www.cineloutres.com/blog/2013/11/12/la-reine-des-neiges/>, (September 5, 2014).
- ディズニール『アナと雪の女王 公式パンフレット』, 今西千鶴子他訳, 東和プロモーション, 2014年3月14日 (Japanese)。
- Ewing, James Blake. "Frozen (2013)" *Cinema Sights*. December 6, 2013.

---

33) Anonymous, "Life's Too Short"; "More Than Just the Spare"; "We Know Better".



- Harpz, Beth J. and Malin Rising. “Disney ‘Frozen’ frenzy includes Norway tourism.” AP Online. 2014. HighBeam Research. (July 29, 2014). <http://www.highbeam.com/doc/1A1-2c8a9d63800f4c349faa38d12a8a5184.html>
- 筆者不詳『『アナと雪の女王』空前の大ヒットの秘密』、『週刊現代』, 2014年6月21号 (56巻21号), pp.174-176
- 巻頭特集「ディズニー、永遠の生命 (アニメーション) アナと雪の女王」、『キネマ旬報』1685号, pp.19-34, 2014.
- Lunden, Jeff. “Well Into Spring, ‘Frozen’ Soundtrack Keeps The Charts Cool.” *NPR Morning Edition*. 2014. HighBeam Research. (July 29, 2014). <http://www.highbeam.com/doc/1P1-225742530.html>
- 夏野剛他, 対談『『アナと雪の女王』のクリストフはなぜ業者扱いなのか? — 夏野剛・黒瀬陽平・東浩紀の3氏が男性視点で新解釈』, 2014年6月9日。(August 20, 2014) [http://www.huffingtonpost.jp/2014/08/07/anayuki-genron\\_n\\_5660493.html](http://www.huffingtonpost.jp/2014/08/07/anayuki-genron_n_5660493.html)
- 阪上由紀「タカラヅカ作品の構成と主題歌 — 《ベルサイユのばら》を例として」, 美學論究』(關西學院大學文學部美學科研究室) 24号, pp.49-63, 2009。
- 島岡讓他『総合和声 — 実技・分析・原理』音楽之友社, 1998。
- 島岡讓他『和声 — 理論と実習』全3巻, 音楽之友社, 1967 (第23刷, 1990)
- 島岡讓『和声と楽式のアナリーゼ』音楽之友社, 1964。
- 島岡讓・外崎幹二『和声の原理と実習』音楽之友社, 1958。
- Siegel, Robert. “Let It Go’: A Global Hit In Any Language.” *NPR All Things Considered*. 2014. HighBeam Research. (July 29, 2014). <http://www.highbeam.com/doc/1P1-227387440.html>
- Soles, Jaime Clark. “Jesus Christ Superstar” *Bible and Cinema: Fifty Key Films*, edited by Adele Reinhartz, Routledge, 2012.
- Wright, Jason F. “Disney’s ‘Frozen’ and Why We Won’t ‘Let It Go’.” *Deseret News* (Salt Lake City). 2014. HighBeam Research. (July 29, 2014). <http://www.highbeam.com/doc/1P2-35794635.html>
- Zara, Christopher. “Disney animated sensation Frozen has created a bonanza for Norwegian tourism” <http://www.independent.co.uk/arts-entertainment/films/features/disney-animated-sensation-frozen-has-created-a-bonanza-for-norwegian-tourism-9497045.html> *The Independent*, (05 June 2014) .

### 参照楽譜

- Frozen: Music from the Motion Picture Soundtrack*. (Piano/Vocal/Guitar Songbook Series) Victoria (Australia): Hal Leonard Corporation, HL0124307, 2013.
- La Traviata* (Giuseppe Verdi, La Traviata. New York: G. Schirmer, 1899)